

吾等が海運界の不況に因由する繋船防止の観点より、血を以て獲得した最低賃銀の一部低下を甘受してより既に一年有餘、其間吾等の生活必需品物價の騰貴と共に、金輸出再禁止に起因する圓價の下落は海上労働の國際性と相關聯して吾等の支出を増大し、加ふるに吾等の生活賃収入は各種手當の廢減と相俟つて益々減少し、失業海員の増大と共に生活の危機は急激に増大化するに至つた。然も一方船主が企業冗費を如何に整理し、海上保険業者並政府がいかん彼等の公約を裏切つて恥ぢざるかに思及ぼす時、此の如き情勢下に於いて、吾々は最早一日も賃銀低下の現狀に甘んずることは出来ない進んで最低賃銀の復舊を期すると共に、船舶經營の參加並保險業者及政府の一大猛省を要求するに非ざれば、遂に吾等は饑餓窮乏のため再び起つ能はざる窮迫に墜すべきを信ずるものである。

實行方法
その實現に關する一切の方法を組合長に一任すること

日本海員組合 昭和七年度大會

宣言(案)

日本海員組合昭和七年度大會に於て、我等は茲に全海上大衆に向つて左の如く宣す。
顧みれば過去十一年に亘る闘争の歴史を通じて、我等は最も憂鬱にして多難なる體驗を、最近の一年に於て特に深刻に味ははしめられたのである。

没落の斷崖に臨みながら、尙最後のシャイネストツク式餘喘を保つ第三期資本主義は、その臨終期に於ける必死的努力を、プロレタリアに對する最後の搾取と虐使の上に發見した。

産業資本に對する金融資本の統制重壓は、産業合理化運動を通じて無産階級の生活苦を加重し、大衆の購買力減退並に關稅の高壁等は、資本主義の自由主義的伸長、國際主義的發展を阻害した。かくして資本主義は遂に怖るべき内部矛盾と自己否定の絶壁に當面するに至つた。

「階級を超越して國民的利益を守れ」等の標語は、自壞自滅の最後の段階に達せる資本主義の延命的退却を掩護する煙幕なりと我等は斷ずるのである。

我等はこの資本主義の末期的現象を、國際資本主義の一連環たる日本の資本主義に於てこれを見る。金輸出再禁止を好機とせる圓賣り弗買ひによつて、不當不正の暴利を博せる金融資本、苛酷なる搾取と重壓を海運業者に強ゆる船舶保險業者、並びにこれ等の暴狀に對して何等の統制も管理も爲し能はざる政府の現狀を見ると、我等はこの前代未聞の難局を打開し、我等の最後の生存權を死守する爲には、組織労働者の團結以外、何物もなき事を痛感するものである。

我等が過去二ケ年に亘つて、組合基金中より十數萬圓を支出して、未だ曾つて如何なる労働團體によつても企圖せられざりし授産所の自營により、數千の失業海員を救済しつゝある事は、雄辯にこれを物語るものである。更に又資本の全面的且組織的攻勢に對し、未だ曾てこれに對抗すべき全國的且有機的提携をもたざりし我國無産階級の陣營を統一整理する事の急務を痛感せる我等の主唱の下に、昨年遂に日本労働俱樂部が結成せられたる事も、一に我等のもつ理想の表現に外ならないのである。

然るに最近に於て彼の滿蒙問題を楔機として、毅然たる階級的信念を忘却し、反動ファツシヨ的勢力と結ばんとする一派が、我等の陣營内に於て、無産階級の分裂と混亂を誘發しつゝある事は、極めて遺憾なる現象である。

今や我等は經濟的に又思想的に極めて重大なる解放運動の危機に當面しつゝある事を認識するものである。此の重大時期に於ける我等の指針は、依然として、組合創立の精神を嚴守する以外に何もものなき事を確信する。即ち

「我國の國情國民性に立脚し、労働者の實感に觸るゝ現實の問題を、その實生活に適應するやう、主として經濟的方法を以てこれを解決する事」

これである。この創立の精神は本組合の對國家觀、對國民觀、對政治運動觀、對國際主義觀を端的に又雄辯に物語るものである。

今や我等は多難にして憂鬱なる一年を送り、又恐らく過去に於けるが如き一年を迎へんとするに當り我等は親愛なる同志諸君と共に左の如く誓はんとす。

我等は一切の流行的乃至日和見的主義及方針を排し、過去十一年に亘り我等のとり來れる堅實なる労働組合主義を以て、内に於ては一步步々其労働條件の改善に向つて邁進すると共に、外に向つては日本労働俱樂部の發展の組織並に健實なる無産政黨運動を通じて、被搾取階級、被支配階級の組織化闘争に精進すべき事を。

昭和七年五月七日

日本海員組合